

ゆうゆう通信

平成25年7月1日発行 第8号

発行 飯田市立病院介護老人保健施設
ゆうゆう 広報委員会
〒395-8503 飯田市上郷黒田341
電話 53-6048 FAX 53-6047



飯田市立病院事務局長

これからのお楽しみに期待しています

五月末より五〇床で運営を開始しました。二十二年十月に十床、二十四年二月に十床、そして同年十月に三十床を増床し、懸案でありました入所ベット数一〇〇床での稼働となりました。それまでには旧施設の取り壊しや、周辺整備工事の影響を考慮しながら一〇〇床体制の準備を進めてきたところですが、予定どおり運営開始ができたことは市民の皆様の深いご理解と、関係する皆様方のご尽力によるものと心から感謝申し上げる次第です。

昨年度は、入所定員一〇〇床の運営開始に伴い、職員体制の整備を行いました。医師については飯田市立病院から新たに二名の派遣により常勤医師一名体制を確保しました。施設長の市瀬医師はじめ、市立病院からのそれぞれの専門分野を持つ先生方の診療を加えて健康管理を行っています。

同時に、看護・介護職員については、夜間における利用者の皆様の安全を十分確保できる勤務体制とするために、看護師一名、介護員九名を増員いたしました。また給食サービスの充実のため、調理員を三名増員し一〇〇床での運営体制を整備しました。

特に看護・介護職員は利用者の皆様の心身の状態について常に注意を払い、その情報を医師に伝達するとともに、職員間においても情報共有をするよう努めており、問題が発生した場合には、医師からの指示に従つた適切な対応を心がけて

今後の課題としては、さらに安心安全で質の高い介護サービスの提供を目指していくことがあげられます。現在当施設は介護老人保健施設の人員配置基準の基準以上は満たしておりますが、よりよい介護サービスを提供するためには看護・介護・リハビリーション職員の人員確保と適切な配置を考えていかなければなりません。現在も自主的な研修や各種資格取得・更新など職員の意欲的な取り組みは変わりませんが、組織的には市立病院との一体施設としての対応を強化していく必要があると考えます。

二点目としては、施設の安定的経営を維持していくためには医療等の関係機関との連携を行いながら、今以上に多くの方々に当施設をご利用いただくことが必要です。残念ながら昨年度は年末から二ヶ月にかけて発生した感染症（感染性胃腸炎）の拡大で入所制限をせざるを得ず、この影響でベット利用率は九十二・八一セントに留まりました。九十五・ペーセントの利用率が今年度の目標です。

三項目は地域との連携です。病院経営も同様ですか。これから施設経営にとつては、医療機関だけでなく地域といかに連携できるかがポイントになります。介護ボランティアとして関わる地域人材との連携や飯田女子短期大学をはじめ、各種学校からの看護・介護実習の受け入れを通した連携、広場の開放や夏祭り人形劇フェスティバルの公演や災害時を想定した防災訓練など市民、特に近隣自治活動組織との連携などです。

地域の介護や住民交流の拠点施設の役割も多方面から今後ますます期待されています。



二階Bチームお花見



お花見で心も満開（三階）

今年は気温の変動が激しく、冬が過ぎたと思つたら急に暖かくなり、桜の開花が例年より早く「花が散つてしまう」と慌てました。満開の頃には花冷えで気温が低く、お花見は冬支度で行つてまいりました。

利用者様の体調に合わせ、お散歩お花見チームと飯田の桜の名所ドライブチームにわかれて参加しました。

お散歩チームは、正命寺のみごとなしだれ桜に感激し、「もう一度行つてみたい」「きれいだったよ」と話しに盛り上がり、笑顔の花が満開になりました。

ドライブチームは、飯田の桜の名所をまわりました。ある利用者様が、名所ごとに「ここは昔は〇〇があつたんだよ」と飯田の歴史をお話してくれ、みなで感心して聞きました。また、このドライブをきっかけにいろいろお話をしてくれました。

お花見で利用者様ひとりひとりの素顔がみえまた、心をひらくきっかけとなりました。季節ごとに出かけてみたいですね。

通所リハビリお花見



丁度満開の頃に行く事が出来、又、なかなか車に乗つての外出の機会がない中で、参加された利用者様の皆さん、表情がとても活き活きしており、「綺麗だなあ。」「うれしいなあ。」と口々に見事な桜に感激されました。

正命寺へのお花見は、手で触れることが出来るほど垂れ下がつた桜の側まで行つてゆつくり桜を楽しむことが出来ました。

四季折々に様々な花が楽しめますが、やはり桜は特別。今年も素敵なお散歩を見て、利用者の皆さんだけでなく、職員も元気をもらつた気がしました。



今年もお花見の季節が来ました。開花予報では今年は早いとの事で、早めの計画を立て、市内の桜の名所をワゴン車に乗つて巡るツアート、車椅子で正命寺のしだれ桜を見に行くツアートにしました。

丁度満開の頃に行く事が出来、又、なかなか車に乗つての外出の機会がない中で、参加された利用者様の皆さん、表情がとても活き活きしており、「綺麗だなあ。」「うれしいなあ。」と口々に見事な桜に感激されました。

正命寺へのお花見は、手で触れることが出来るほど垂れ下がつた桜の側まで行つてゆつくり桜を楽しむことが出来ました。

天候にも恵まれ桜並木や黄梅院、松尾方面の利用者様は松尾城跡公園などを車で回りました。

希望された方は正命寺の桜の下で記念写真を撮りました。おやつの時間には桜湯を召し上がつていただき、味覚でも桜を感じて頂きました。

普段笑顔の見られない方の笑顔が見られたり、歩きたがらない方が歩いて桜のところまで行つたりと満開の桜のもとで利用者様の新しい一面が垣間見られた一週間になりました。



おむすび職場紹介㊱（三階Bチーム）



ゆうゆう三階Bチームではユニットケアを提供させて頂いています。Bチームは昨年の十月一〇〇床での稼動に伴いオープンしたユニットです。ユニットケアは、入所者様が十人前後の単位、空間に分かれて介護させていただく方式です。比較的小さなスペースで生活するにより、入所者様同士も顔見知りとなり、職員は一人ひとりの利用者様の行動に目を配ることができます。

現在Bチームは十一名のスタッフで、すみれ・さくらの二つのユニットに携わっています。

ご飯はユニットのキッチンで炊いています。

時にはご希望の食事を一緒に作ったりします。

また、利用者様のこれまでの生活歴を知り、

その方の生活に合わせた日課表をもとにケアを行い、その結果三階では笑顔、会話があふれています。

三階スタッフ一同、家庭的な雰囲気の中で「共に暮らす人」としての関わりを深め、安全で生活し易い場所つくりを目指しています。

ゆうゆう三階Bチームではユニットケアを

提供させて頂いています。Bチームは昨年の十

月一〇〇床での稼動に伴いオープンしたユニッ



環境マネジメントシステム

飯田市では環境保全活動や環境改善活動を推進するために、適用する国際規格に従つて継続的に改善する環境マネ

ジメントシステム（ISO）に取り組んでおり、ゆうゆうも平成二十四年から適用の対象となつて様々な活動を行つています。そのひとつを紹介します。

グリーンカーテンの取り組み（二階）

ゆうゆうではISO一四〇〇一エコプロジェクト

の取り組みとして、グリーンカーテンの設置に取り組んでいます。グリーンカーテンによる節電効果は6

%といわれており、ゆうゆうでも共有スペースの南側と西側の窓に「ヘチマ・ゴーヤ・アサガオ」を植えました。特に共有スペースであるデッキスペース

にはヘチマとアサガオによる棚を作成し葉が茂るの

を楽しみにしています。

また、グリーンカーテンは節電目的だけではなく、

利用者様達の交流・役割・楽しみとして取り組んで

おり、毎朝当番の利用者様と水撒きをしながら、ヘ

チマの立派な茎や葉っぱの大きさといった成長振り

に感激しています。

グリーンカーテンで夏を楽しく、涼しく過ごせる

ように今から楽しみにしております。

グリーンカーテンの取り組み（通所）

梅雨が明けると夏本番がやってきます。今年は去年よりさらに暑い！暑い！夏になるようですね。

近頃地球温暖化対策や節電対策につながる、地球にやさしいグリーンカーテンを街のあちこちで見かけるようになりました。ゆうゆう通所リハビリでもグリーンカーテンに取り組んで三年目を迎えました。一年目はあさがおに挑戦しましたが、虫に食べられ失敗。二年目は大収穫を期待したゴーヤに挑戦しましたが、一つも採れないままこれまた失敗に終わつてしましました。

三年目の今年は大きな葉っぱが育ちグリーンカーテンに最適といわれている「ヘチマ」を八本植えました。今のところ順調に育ち大きな葉っぱに覆われてきました。今の中には黄色のかわいい花が咲いています。花が咲き終わると

へちまへと成長していきます。夏の終わり頃には昔懐かしい「ヘチマ水」と「たわし」

を作る予定です。

今年こそは何とか成功させて、涼しい夏を過ごしたい

と思っています。



ボランティア日記

(二階 傾聴ボランティア)



傾聴ボランティアの福澤貞子さんのご紹介をします。介護の経験も長く、以前ゆうゆうで勤務されておられた福澤さん。ゆうゆうの事をよく知つており師長の熱いラブコールに応えて、主に三階「ゆうゆうに来ると元気をもらえる。」と、利用者様との距離も非常に近く、豊富な経験を活かして利用者様と歌を唄つたり体操をしたりして素敵な笑顔を見せてくださいました。「なじみの顔に普段では見られない顔を見ることが出来ました。



高齢者の家庭内事故

(国民生活センター調べ)



今回は家庭内の事故についてお話ししたいと思います。

家庭内の高齢者の事故で何が多いかご存知でしようか？国民生活センターによると、一位は階段からの転落、二位 屋外作業中の転落、三位 食品の誤飲・誤嚥、四位 着衣着火での火傷、五位 風呂場での転倒、となっています。

高齢者は二つのことを同時に使うことが困難になるとと言われています。何かの動作中に別のことに注意を向けることが難しく転倒につながることが多いようです。特に七十五歳以上の方は骨の構造が弱くなっているため、転倒や転落によって骨折しやすくなっています。

このような事故を防ぐためには
①階段にはてすりや照明を設置し階段の周りに物を置かないようにする。
②高所での作業は一人では行わない。
③食事の際には、適量を口に運びゆっくり食べる。また飲み物と間違えてしまうような液体などは近くに置かない。

現在、たんぽぽユニットには福澤さん手作りの色紙が飾られており、色紙を眺めながら福澤さんの来て下さるのを今か今かと首を長くして待つている皆さんでした。

編集後記



富士山が世界文化遺産登録されました。世界有数の山々の中に、我がふじやまの名が刻まれるのはとてもうれしいものです。
富士山周辺は観光地として展望台や散策ルートを計画していくとの事ですが、昔も今も変わらない素敵な富士山の色んな顔は残していくほしいと願います。
我がゆうゆうは、創立二十周年として今秋、記念事業を計画しております。ゆうゆうはどんどん進化し続けます！

(木)

④火を使うときには衣類のそでやすそこに注意する。
⑤浴室と脱衣場の温度差を減らしたり、湯温が熱くなりすぎないよう管理する。

⑥商品選びを工夫する。（安全なものを購入するよう心がける）
事故を防げるよう環境を整え、家庭で安全に生活できるようにしていきましょう。

以上を参考にしていただき、できるだけ事前に事故を防げるよう環境を整え、家庭で安全に生活できるようにしていきましょう。

介護ワンポイントアドバイス⑤